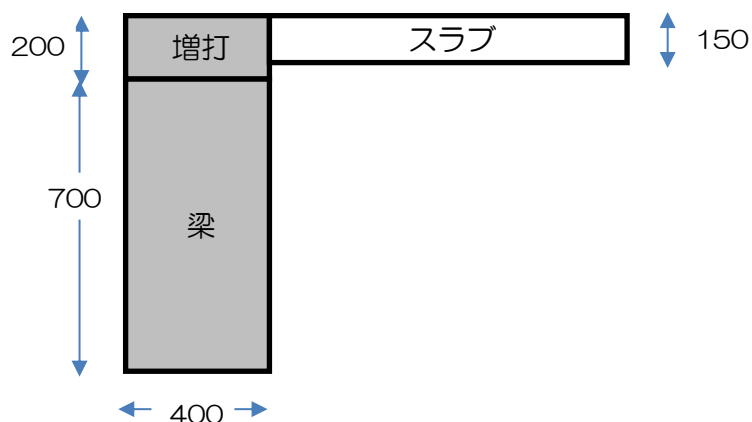


天端に増打がある梁に、スラブが接続する時の型枠

梁の上部に増打があり、その増打部分にスラブが接続する時、増打部分の型枠からスラブ厚が引かれていないとの指摘を受けることがあります。



上図の時、梁の型枠の計算書は、以下のように出力されます。

** 大 梁 **		コンクリート (m ³)	型枠 (m ²)
2	G 1	区分=1 通り名=Y1 X1-X2 (Fc-21) 0.7×0.4×5.5×1×1=	(普通) 1.65×5.5×1×1= 9.08
2	G 1U	区分=1 通り名=Y1 X1-X2 (Fc-21) 0.2×0.4×5.5×1×1=	(普通) 0.4×5.5×1×1= 2.20

- ①増打部分 (G 1U) の型枠計算式を見ると、 $(0.2+0.2) \times$ 梁長さとなっており、確かに、スラブ厚を控除しない数量となっています。
- ②梁本体部分 (G 1) の型枠計算式を見ると、 $(0.7+0.4+0.7-0.15) \times$ 梁長さとなっており、スラブ厚を控除した数量になっています。

つまり、型枠計算においては、下部のように、梁本体からスラブ厚分の型枠を控除する計算を行っています。

